

路地百選推薦書【No. 196】

推薦者氏名：事務局

推薦する路地（のまち）の名称	鎌倉 宇都宮小路
所在地	神奈川県鎌倉市小町・雪ノ下

【推薦する理由（路地のよいところ）】

鶴岡八幡宮の参道である若宮大路の東側をほぼ並行して、八幡宮に向かっている。

宇都宮稲荷神社があるあたりに、第3代執権北条泰時により幕府が移された。元は宇都宮氏の居館があり、西の若宮大路と東の小町大路を結ぶ小道「宇都宮辻子」があった。

ほぼ幅一間程度の路地が、住宅街の中を他の路地と交差するたびに右に左にとあみだくじのように向きを変えていく。しばらく行くと黒塀に囲まれた大佛次郎旧宅に着く。コーヒーが飲めるようである。この大佛次郎旧宅の地もかつて若宮大路幕府があった場所とのこと。こんな道にも、居住者のものか車が入ってきてやり過ごすのに往生する。

【写真添付】



幅一間ほどの路地と生け垣



S字を描く路地



大佛次郎旧宅



宇都宮稲荷



路地	面積	約 ha	路地の延長	約 m
のまちの成り立ちの特色概要				

源頼義（八幡太郎義家の父、頼朝の五代前）が相模守となり、「前九年の役」後、源氏の守り神である京都の「石清水八幡宮」を「由比郷鶴岡」に勧請した（現在、材木座にある「元八幡」（由比若宮））。三方を山に囲まれ、南に海が広がる天然の要害として、後に鎌倉幕府が置かれた。鎌倉幕府滅亡後も鎌倉公方などがおかれ、その補佐関東管領である山之内上杉などが戦国時代まで続くことになる。山之内や扇ガ谷（おうぎがやつ）は鎌倉の地名として現在も残っている。

鎌倉は平地が狭く、平地を有効に活用するように狭い路地が縦横に回っていると同時に、周囲の斜面地にも伸びている。鎌倉は太平洋戦争において京都・奈良と同様に空襲をほとんど受けなかったことから、神社仏閣などの古い建物とともにこれらの路地が多く残っている。